

科 目 名
-------

<b>専門英語Ⅱ</b> <b>Technical English Ⅱ</b>
--

3年 後期 2単位 選択  
(電子情報ネットワーク学科、  
コンピュータシステムテクノロジー学科)

吉 岡 大 三 郎

## 概 要

電子計算機は、電子工学の発展とともに急速な進歩を遂げ、今日社会の極めて広範な領域に導入され、社会生活や研究活動に不可欠なものとなっている。本講では英語の文献を通じてコンピュータの基礎知識を学ぶ。

## 目 標

- 1) 電子計算機用語を習得する。
- 2) 電子計算機の基本概念を理解する。

## 授業計画

テ ー マ	内 容
1. 電子計算機の基礎知識	電子計算機の主な構成要素とその働き
2. ハードウェア	中央処理装置、入出力装置、記憶装置
3. ソフトウェア	OIS、OB
4. 新聞・雑誌の記事	マニュアル等を読む

## 授業方法

1. 訳読 学生はあらかじめ指定された文章を音読する。  
読み方について教員が注意を与える。
2. 演習 授業で習ったことについて演習形式で更に理解を深める。

## 評価方法

学習状況（出欠、演習）を加味し、定期試験の成績で評価する。

## 教 材

教科書：平井利明 著「新体験・英語で学ぶコンピュータ」 共立出版社

## 履修上の注意

遅刻しないこと、1/3以上欠席すると再履修となる。

## 科 目 名

# 専門英語Ⅱ Technical English Ⅱ

3年 後期 2単位 選択  
(ナノサイエンス学科)

水 城 圭 司

## 概 要

化学の分野では英語が公用語となっていて、最新の重要な化学情報はほぼ全て英語によって公表される。これらの情報は、将来、卒業研究や大学院での研究、さらには企業での研究開発などにも必要となるので、この時期に化学英語の初歩を習得するのは、大変重要である。

この講義では、これから化学英語を習い始める若者のために書かれた教科書および、英語論文を用いて「化学英語の基礎」について講義する。

## 目 標

英語で書かれた化学関連文献や資料を正しく理解するための化学英語の基礎を習得する。

## 授業計画

テ ー マ	内 容
1 化学英単語	頻出の化学英単語
2 化学英語表現	頻出の化学英語表現
3 英文和訳 1	有機・無機化学論文の訳し方を学ぶ
4 英文和訳 2	高分子・生化学論文の訳し方を学ぶ
5 論文読解・有機化学 1	有機化学に関する論文を読解する
6 論文読解・有機化学 2	有機化学論文に書かれた実際の実験法を理解する
7 論文読解・無機化学 1	無機化学に関する論文を読解する
8 論文読解・無機化学 2	無機化学論文に書かれた実際の実験法を理解する
9 論文読解・高分子化学 1	高分子化学に関する論文を読解する
10 論文読解・高分子化学 2	高分子化学論文に書かれた実際の実験法を理解する
11 論文読解・生化学 1	生化学に関する論文を読解する
12 論文読解・生化学 2	生化学論文に書かれた実際の実験法を理解する
13 論文読解・材料化学	材料化学に関する論文を読解する
14 定期試験	教材から作成した英語の設問に回答する

## 授業方法

教材を元に演習・対話により授業を行う。私語、特別な理由のない遅刻、欠席は認めない。

## 学習到達度の評価

1. 各授業開始時に前回の授業内容に対する小テストを行う。
2. 授業中に適時質問をし、学生の理解を促すとともに理解度を確認する。

## 評価方法

定期試験80点に、各回の小テストの結果を参考に計100点で判定する。60点に満たない場合は追試・レポートにより加点する場合がある。

## 教 材

大沢善治郎 著「化学英語の手引き」 裳華房 (1999)

科 目 名
-------

<b>専門英語Ⅱ</b> <b>Technical English Ⅱ</b>
--

3年 後期 2単位 選択  
(エコデザイン学科)

水 田 義 明

## 概 要

専門的な英語を理解する能力を向上させるためには、日ごろから英語で提供される情報に関心を持ち、新しい技術用語や表現に接する努力が必要である。

この講義では、最新の新しい技術に関する話題を取り上げ、英語と日本語によるビデオとプリントを通して、技術的な表現力、単語力を身に付ける。また、英語で記述された安全問題を考えることにより、英語での表現力を身に付ける。

## 目 標

- 1) 環境建設工学分野の技術用語とその内容を正確に理解する力を養う。
- 2) 英語で簡単な技術報告書の書ける素地を養う。
- 3) 英語技術レポートの表現法を学ぶ。

## 授業計画

テ ー マ	内 容
① 日本における掘削工事の現況	レポートの書き始め、レポートの文章、イラストレーション、具体例、レポートの仕上げ。
② 世界における最近の建設災害	問題の記録

## 授業方法

ビデオとプリントを用いて行う。

## 評価方法

出席率30%、演習30%、試験40%の割で判定する。

## 教 材

ビデオ：松島炭鉱株式会社池島鉱業所（日本語）  
Matsushima Coal Mining Co. Ltd Ikeshima Colliery (English)  
Engineering Disasters (English)  
Disasters of the Century (English)

科 目 名
-------

<b>専門英語Ⅱ</b> <b>Technical English Ⅱ</b>
--

3・4年 後期 2単位 選択  
(宇宙航空システム工学科)

友 枝 正 次

## 概 要

いま、あらゆる分野において、国際的交流が進み、まさに国境のない（ボーダーレス）社会が到来した。その中で、専門技術英語は、工学に携わる者にとっては最低限必要な素養となる。ここでは、宇宙航空システム工学科で履修する主要専門科目に共通し、さらに産業社会で即必要とされる、基礎的な専門英語についての講義を行う。

## 目 標

- 1) 材料力学、流体力学さらには宇宙工学等宇宙航空システム工学科で履修する主要専門科目に関する英文原書および英文学術論文の基礎的な読解力を身につける。

## 授業計画

テ ー マ	内 容
1 材料力学の基礎英語	材料力学に関する英文原書の読解
2 流体力学の基礎英語	流体力学に関する英文原書の読解
3 宇宙工学の基礎英語	ロケット工学や宇宙航行に関する英文原書の読解
4 学術論文英語	英文学術論文の読解

## 授業方法

プリント、プロジェクタを用い、学生自らのオーラル・プレゼンテーションへの積極的な参加を促す。

## 評価方法

宿題提出、定期試験の成績、授業出席状況および積極的参加か否かを総合的に判断して、判定する。

## 教 材

プリント、OHP

## 履修上の注意

英語は、日本語と同様に、くり返しくり返し声をだして読み話し、さらに聴き、自ら作文することによって身につけていく。したがって、学生の授業への積極的な参加は最低必要条件 (*must*) である。専門英語Ⅰの履修が必要である。

科 目 名
<b>専門英語Ⅱ</b> <b>Technical English Ⅱ</b>

3年 後期 2単位 選択  
(応用生命科学科)

上 岡 龍 一

## 概 要

英語は自然科学の分野における標準的言語として世界中で使用されており、英語で記述された学術論文、著書、さらにインターネットのコンテンツなどから必要な情報を抽出し、正確に内容を理解するためには、各専門分野の英語に習熟することが不可欠となっている。学部や大学院での研究活動においても、研究テーマの背景や最新情報を英文情報より調査することは極めて重要な作業であり、該当分野の専門英語力が要求されている。

本講義では、生命科学分野の英文資料を使用し、ヒヤリング、リーディング、英文読解などの専門英語の基礎と応用を学習する。

## 目 標

生命科学系の専門英語の基礎と応用を学び、技術者・研究者に必要な英語力の習得を目標とする。

## 授業計画

化学、生物学、薬学分野等の英語あるいは工業英語などの平易な英語で書かれた短い英文を精読し、基本文法を理解する。次に、英文法の基礎を踏まえ、各分野の長文翻訳のトレーニングを行い、専門英語の語彙力と読解力を養う。

テ ー マ	内 容
① 文の主要素・従要素	5文型、形容詞、副詞、助動詞 数値・数式
② 構文	受動態、完了形、不定詞、動名詞、分子構文、関係詞
③ 長文読解	有機化学、生化学、薬理学、遺伝子工学、細胞工学

## 授業方法

講義は、配布プリントを教材として使用し、演習形式で行う。

## 評価方法

試験と出席率および平常点より。

## 教 材

プリント等を使用する。